

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	岩手県大船渡市盛町字町3番地1		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成24年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390300051&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成23年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個別介護計画はコンピュータシステム「ちょうじゅ」を導入しており、科学的ケアの実践に努め、また利用者の幼少期から入所直前までの生活歴等を勘案し、全人的なケアの提供に努めている。当事業所が所在する地は、盛町商店街の中心地に立地しており、利用者の食材料等の調達等は出来るだけ商店街で買い物をし、地域交流の一環として捉え、加えて商店街の活性化の一助にもなっていると認識している。また、事業所名のとおり認知症の利用者を「まちぐるみ」で支えているという観点から、パブリックスペース等を活用した地域交流の機会を数多く設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中心地という地理的利点を活かし、介護老人福祉施設「蔵ハウス」とグループホーム「まちぐるみ」とが法人の複合施設となり協力体制が取れるようになっている。白い漆喰(しっくい)の蔵をイメージした三階建ての落ち着いた建物で、屋内外に交流スペースを広く取り、市・商店街・地域に、祭典・文化祭等の際の場所提供をし、地域貢献も行われている。介護計画システム「ちょうじゅ」の導入で、利用者の状況を細部にわたり、管理がなされている。昼食は利用者、職員が共に席に着き、和やかな雰囲気でも話も弾み、笑い声が聞こえてくる楽しいひと時であった。職員も利用者の話に真剣に対応しており、信頼関係が築かれていることがうかがい知れた。震災を機に、地域の事業所に対する様々な期待も大きくなり、「まちぐるみ」を中心とした今後の「地域の展開」も楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人「すべては愛から始まる」当事業所は「まちぐるみ福祉の拠点として」を方針と目標に掲げ実践している。	玄関入り口に掲示してある。毎日の朝礼で唱和をしている。年度初めの運営会議では、理念に関して検討を重ねている。新人研修には理念を基本とした指導が行われ、日々のケアに活かす体制がとられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや個人商店への買い物・散歩。事業所内での催し物へ地域の方々を招待をし参加していただいたり、震災後には盛町子供相撲大会の会場を設置したり、七夕祭りには駐車場に無料の出店を開きカラオケ大会を実施した	市街地の利点を活かし、地域とは親密な関係が築かれており、市、商店街、子ども会の行事には場所提供や、援助を行っている。震災時には、近所の住民50人が援助を求めて来所し、ライフライン復旧まで場所と食事の提供を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回発行している「まちぐるみ通信」にて、認知症についての紙面を作成し、認知症の理解や支援の方法を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告、通信の回覧にて話し合っている。会議の際には必ず委員よりまちぐるみの取り組みについての意見等を伺っている。また、随時テーマを絞りオブザーバーとして参加して頂いている。	推進会議は介護老人福祉施設「蔵ハウス」と合同で開催されている。震災を契機に防災、特に津波を視野に入れた話し合いが行われている。地域の人のためにも玄関を開放している。	町の復旧、活性化においても、事業所の果たす役割は大きく求められており、幅広い意見や支援を求めていく点からも、委員さんの幅を広げることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や、大船渡市内の事業所及び市町村担当者が集まる事業所連絡会への参加をし、当事業所の状況等を報告している。	連絡会では、状況報告や待機者の調整について話し合われている。成年後見制度を利用している方が2名おり、担当課と連絡を取り合い、指導や助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット内にマニュアルを設置している。また、玄関・リビングからの出入りは自由であり、具体的な禁止行為は理解している。	法人にはリスクマネジメント委員会(兼ヒヤリハット委員会)感染症委員会、防災委員会があり、それぞれに復命研修も行っている。法人独自のマニュアルが作成されており、職員も研鑽を積み、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や介助時は状態の観察をし、何かあれば(発赤や掻き傷なども)記録している。内部研修を実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び日常生活自立支援事業等の内部研修を実施している。また、ご利用者様やご家族の方々にも周知して頂くよう、玄関前に資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に加え、介護報酬改定等の際にも十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて意見を聴取している。また、家族等が気軽に意見等を述べる施設長への直送便を設置している。利用者からは毎月懇談会を実施し、意見等を聴取している。	玄関前に施設長あての通信箱を設置しているが、ほとんど利用されていない。家族の訪問時に、話し合いをする機会を持っている。利用者とは、毎月、懇談会を開催し、意見や希望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議を開催しその際に意見を聴取している。	月1回、個別に意見の聞き取りをしている。職員からは、日勤マニュアル設定等の要望が出され、改善に向けて対応がなされた。職員の意見や要望は、上部に届く体制が確立されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。具体的には、業務の見直し等を随時行い、勤務時間内での労働に取り組んでいる。また、職員会議等では、職員が意見を積極的に発言できる雰囲気作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には積極的に参加をしている。また、個々の質の向上には、毎日のミーティング時に簡潔なカンファレンス等を行い、トレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、主に外部の研修会等に参加した際に、交流や活動の情報交換をしている。岩手県GH協議会に出席し、その際にも情報交換等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階で本人及び家族等から詳細に聞き取りを行い、また、担当ケアマネとの連携し本人の安神確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも上記に同じ。入所後は状況により面会時や電話等で知らせ、家族と相談しながら対応策を検討することもある。(受診対応など)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後2週間は極め細かな状態観察を行い対応策を検討し、利用者に「その時」に一番必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも職員は利用者の生活をお手伝い・支援するという立場で接している。具体的には、共に調理をしたり、様々な場面で利用者の希望を取り入れ実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業者は約半数の身元が遠方なので、2ヶ月に1度の広報誌の送付や日常の生活を電話連絡等をしており、例え遠方であっても利用者の生活が理解できるような努力をしている。また、同室にて宿泊もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に出向いたり、友人との交流を積極的に努めている。また、在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを促している。	大型スーパーでの買い物(衣類、化粧品等)、行きつけの菓子店で好みの菓子を購入すること、市日(イヅ)で花を買うこと、家族や友人に電話を掛けるお手伝い、来訪する友人への接待の支援、絵手紙で連絡してくれる家族への電話をかける支援等が行われている。	※市日……市がたつ日。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所全体を一家族と捉え、毎日の食事や活動等に一同が会える事ができるよう雰囲気作りに努めている。その結果が現在居室にて孤立している方はいない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後退所者は4名いる。退所時移動先の事業所に本人のこれまでの様子を情報提供し、移動先での環境への不適応がないように心掛け、連携を密に図っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者から直接、事業所での生活に対する希望等を伺っている。また、利用者懇談会にて個別に聞き取り等を行い、意向の把握に努めている。	自分の思いを表現できない方が1名いらっしゃるが、ほとんどの方は、月初めの利用者懇談会や随時希望や思いを話している。利用者担当としているが、情報はすべての職員が把握し、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、担当者会議を開催し介護計画及びモニタリングを行っている。その担当者会議の際には、家族等にも参加を促し、参加できる家族は会議に参加をし、意見等を徴集している。	家族を含めた担当者会議を望んでいるが、家族の参加はなかなか難しく、電話・ファックス等で家族の意見を聞き、ケアプランに反映させている。介護システムの情報が非常に効果を上げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケース記録等を共有し、介護計画を再立案する際に見直しを行っている。特に計画の課題の他に出現した様子等は随時情報共有を行い、即時に対応をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業の利用者は他事業所の利用はないが、事業所内で生まれたニーズには柔軟に対応している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時地域の方々が参加できる行事等を立案し、地域と共に暮らしを楽しむことができるよう支援している。色々な展示会や催し物の見学を実施。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所では嘱託医をお願いしており、月2回受診をしている。また、専門医の受診は適宜判断し、適切な医療を受けられるように支援している。	大半の利用者は、嘱託医の診療を受けている。初診時や、県立病院へは、家族の同行としているが、その他は事業所から近いこともあり、職員対応である。週2回「蔵ハウス」の往診時に、グループホームに寄っていただくこともある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では看護師は配置していないが、併設している事業所の看護師に随時相談等を行い、適切な受診ができるよう支援をしている。また、前述した嘱託医との連携にも努めている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者は2名いた。状態により退院後の行先を家族と相談し合う。病院へは何度も足を運び、担当看護師に病状の説明を受ける。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、入所時に確認をしている。また、事業内ではターミナルケアのマニュアルを作成しており、職員間で方針を共有している。	スタッフによっては、同法人別施設にて看取りを経験した者もいる。利用開始時に終末期等については、事業所の限界を説明している。重度化に際しては「蔵ハウス」や他の施設を紹介し、家族に理解をして頂いている。法人全体研修会でターミナルについての研修をしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についても、マニュアルを作成している。また、施設内研修では心肺蘇生等を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で消防訓練を毎月実施し、職員非常連絡網も作成している。また、地域との協力体制は現在構築に努めている。	震災当日は3階に全員が避難できた。推進会議でも話し合いを重ね、消防・警察・地域とも情報の共有を行っている。発電機、衛星電話、カセットコンロ、オートバイ(連絡手段)、米備蓄3~5ヶ月分、水は井戸を掘り、対応した。マニュアルを再検討して(津波対応を強化)作成した。地域の避難所としての機能も検討された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業では常に職員にすべてのケアの場面で「利用者の尊厳を損ねないように」との意識付けに努めている。現在言葉かけ等に関する苦情等はない。	各種プライバシーのマニュアルが作成されている。声掛けについては、研修を繰り返して、慣れ親しんだ言葉で、利用者の耳に届きやすい声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけの中で実践している。すべての場面で常に利用者自身が選択できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者懇談会にて希望を伺い、それに沿った支援をしている。また毎日の予定を話し、利用者本位のケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容院や床屋、化粧品等の買い物ができる体制作りに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に嗜好品の調査を行っている。また、準備や食事等は毎日利用者と共に実践し、職員も昼食時は一緒に摂れるように努めている。	利用者の好みと職員の話し合いで、1週間分の献立を作成している。献立内容は、法人の管理栄養士にチェックを受けている。野菜刻み、盛り付け、後片付けに参加がある。訪問当日は「さんまのすり身汁」「栗ご飯」と季節の食事を楽しく頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば食事に関しては1日30品目以上の食材を摂取できるように心がけている。また、水分量等については、当事業所で取り入れているコンピュータシステムで管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。また、随時歯科受診等を行い、その際には利用者個人毎の口腔ケアの指導も頂いている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	開設当初から利用者の排泄パターンに沿った排泄ケアを実践しており、排泄ケアは随時交換で対応をしている。	ほとんどの利用者は、排泄が自立であり、夜間には見守りに対応している。各居室にトイレ、洗面台が完備されており、恵まれた環境である。夜間だけポータブルトイレを使用する方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・運動・習慣等を考慮しながら便秘予防に努めている。また、囁託医と連携をし、時には下剤等の処方もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は決まっているが、他に希望があれば対応している。	1日3～4人が入浴しているが、希望があれば対応可能である。介助が必要なくても見守りは欠かさない。湯船につかると、普段話をしない方でも、ゆったりとした気分で、会話を楽しむことがあり、職員にとっては、貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地域がらから入眠時間が早い方もおり、夕食時間を早目に対応している利用者もいる。また、日中行事等があった際には、疲労等も考慮し気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの内服表を作成し、薬剤師より提出された副作用及び用法や用量を理解と確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。入所後も定期的に嗜好調査等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、食材料の調達等のために外出の機会を随時設けている。また、本人の希望等を考慮し、家族共々バスハイク等に出掛けている。	食材の買出しの多くは、近所の商店で行い、車椅子で参加をする方もある。法人の敷地内を散歩したり、車で大型店まで買い物に出かけることもある。家を見に出かけたり、家族も参加し、花見や紅葉を観る行事を企画している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での預り金はあるが、お金を所持している方々もおり、外出の際や家族等にお小遣いを手渡したり等、金銭の大切さを理解して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いたり、本人が希望した場合は直接電話等をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外は、常に季節感をもし出すような装飾をしている。また、共用空間は出来るだけ暖かさを感じて頂けるような雰囲気作りにも努めている。	木材をふんだんに使った建築で、建具や天井に自宅に近い配慮がされて、ゆったりと落ち着く。ソファが所々に置かれてあり、いつでも一人になれる工夫がなされている。「書」「絵」「写真」「季節の花」が配置良く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング以外にも気の合った利用者同士で過ごせる居場所を確保している。また、併設事業所の地域交流スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを本人及び家族等にも促している。	居室は9畳ほどと広くベッド(希望で畳も可能)トイレ、洗面台が付いている。私物の持ち込みは、比較的多く、桐たんす・ソファ・お位牌・テレビ・扇風機等で、個々の部屋作りが、良くなされている。床暖房で「暖」をとれる。整理・整頓がよくされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、建設時よりバリアフリーや尊厳の保持を念頭に各居室にトイレを設置している。また、ユニット内だけではなく、地域交流が出来るスペースも確保している。		